東海のNPO訪問

サードブリッジあいち

すべての働く人をサポート

中高生を対象に働くことについてのセミナーを開催

就労支援、職業・金銭教育、キャリアカウンセリング、各種労働問題相談などの事業ですべての働く人をサポートしていこうと活動しているサードブリッジあいち（名古屋市中川区服部四ノ一五〇九、電話052・431・8697、http://shigotonochikara.jp/npo.htm）。各種セミナーの開催や就労相談などを行っている。現在の理事長で社会保険労務士でもある吉村祐二さんに話を聞いた。

職業教育が必要

三年ほど前、社会保険労務士が集まり、勉強会を立ち上げたのがそもそもの始まりだった。改正されることの多い法律について学んだり、同業者同士で情報交換するための勉強会だ。そこで話題になったのが、職場になじめない、仕事が長続きしない、転職を繰り返すといった若年層のことだった。そして何かできないかという思いから、NPO法人を設立することにした（平成十七年十二月に認証）。メンバーには社会保険労務士のほかに行政書士、ファイナンシャル・プランナー、キャリアコンサルタント、年金コンサルタントといった人たちがいる。

社会保険労務士は社会保険に関する手続きのほか、企業の教育研修、キャリアカウンセリング、労務管理など企業の現状や今後進んでいく方向などを知る立場を生かし、若年層に対する職業教育や金銭教育によって社会貢献を果たそうと考えたのだ。

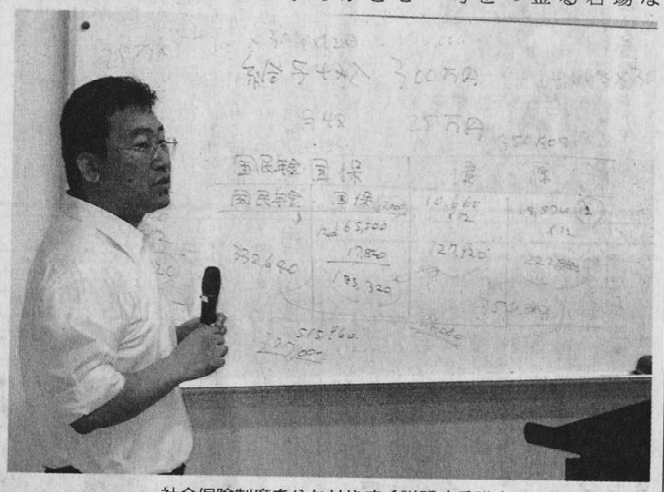
若者がなぜ仕事を長続きさせることができないのか、なぜ仕事に就かないニートと呼ばれる若者が増加しているのかを考えた時、日本では職業教育がない、もっとさかのぼれば家庭で父の働く姿を子どもにきちんと伝えていないといったことに行き当たった。そこで高校生に仕事や働くことについて理解を広める、職業教育を行うことにした。

セミナーや就労支援相談も

愛知市民教育ネットが主催するサマーセミナーに参加。そこで高校生を対象に、働くことについての講座、コミュニケーションに関する研修、職業疑似体験ケースワークなどを行った。また、NPOの事務所でも高校生を集め、ミニセミナーを開催。「セルフデザインゲーム」を使って職業・キャリア教育を、引きこもり、フリーターを対象に、就労支援の相談も始めた。「どのように働いていくかしみやすい形で提供した。このセルフデザインゲームとは、モノポリーのようなボードゲームで、サードブリッジあいちが開発したオリジナルツール。五～六人で楽しみながら仕事を疑似体験する。

しごとの力

さらに昨年七月から今年三月まで、名古屋市若年者就労支援事業を受託。高校生より年齢が上の若者、ニート、前を付け、イラスト付きで分かりやすく解説についての悩み、不安を抱えている対象者と一緒に考え、最良の道を探すお手伝いをマンツーマン担当制で実施している」という。徹底的なカウンセリングを行い、対象者ごとに勤労観の醸成、就労プラン作成、面接ロールプレイ、求職機関への同行などを行った。昨年八月から今年三月までは市からの委託事業として、あいちNPO交流プラザでほぼ毎週、セミナーやケースワークなど「説明力」「修正力」「先見力」など百個の〝力〟をピックアップしてあり、イラストや解説はまだすべてには付いていないが、いずれ完成させ、ゆくゆくは図鑑のような形で本にしたいという。

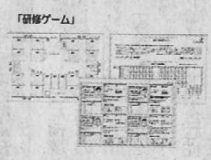

社会保険制度を分かりやすく説明する講座

今後は、若年層だけではなく、すべての年齢層の働く人を支援していきたいと吉村さん。若年層の就労支援に加え、中小企業の人たちを対象にキャリアカウンセリング、労働問題相談など、できることを行っていく。中小企業ではなかなか教育の機会も持てないので、企業の中の人材育成担当者を対象に、研修の進め方に関するセミナーなども開催したいとのこと。

ホームページに載せている(http://shigotonochikara.jp/shigoto.htm)。

仕事疑似体験ツール

「セルフデザインゲーム」


「研修ゲーム」

しごとの力　オリジナルトランプ

職業・金銭教育などに使うさまざまなツール